



碧南ロータリークラブ週報

第3117回例会 令和7年1月29日(水)

- 会長 鈴木 泰博
- 幹事 大竹 密貴
- 会場監督(SAA) 長田 康弘

2024-2025 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp



- 会報委員 牧野勝俊・杉浦邦彦・岡本耕也

●斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

●本日のお弁当

大正館

●本日のお客様

岡崎東RC 神谷 浩君、岡崎南RC 神尾 淳君、豊田RC 餅原幹也君

会 長 挨 拶

失礼致します。本日も例会にご出席いただき、ありがとうございます。

先週は非常に暖かい日が続いておりましたが、今週になりましてまた寒い日が続いております。くれぐれもお体には気を付けていただきたいと思います。

本日の職場例会は会員である社会福祉法人愛生館理事長の小林清彦様のご厚意により、複合施設 CORRIN の見学をさせていただきます。前回の例会ではデイサービスの方のお話を伺い、今回は福祉現場での活動について勉強させていただきます。

話は変わりますが、昨日、碧南商工会議所で新春講演会が開催されまして、元中日ドラゴンズの抑え投手として活躍された岩瀬仁紀さんのお話を聞かせていただきました。商工会議所主催のため岩瀬さんは野球と経営を結び付けて「部下や仲間を信用し信頼すること」と経営者は「右腕になる No.2 を持つこと」の重要性を話されました。また、お話の中で私の記憶に残っているのは、私（岩瀬さん）が長く野球をできたのは「柔軟性に富んでいること」と「親に怪我をしない丈夫な体を貰ったこと」で、中学・高校・大学・社会人・プロ野球でそれぞれ厳しい練習をやってきてもすぐに苦しい状況に慣れることでより成長することができたと話



鈴木泰博会長

されました。

私たちが「忙しい」とよく言いますが、忙しいことが当たり前なら忙しいと感じません。自分の置かれた立場が苦しくても、常にその状況であれば慣れていって、自分を成長させられるというようなことを言ってみえました。私も数年前には考えられなかったような多くのことを経験させていただき、はたから見ると忙しいということになるんですけど、それもやってしまえば当たり前ということで、楽観的に考えるようにしております。自分の置かれた立場を当たり前と受け止め、さらに上を目指すことで、それほど苦しさを感ぜずに成長できるのではないかと思いましたので、皆さんにお話しさせていただきました。

本日は職場例会ということで、よろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 2月5日（水）の例会終了後に第8回理事会を開催致しますので、理事、役員の方はご出席いただきますよう、よろしくお願い致します。



大竹密貴幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 59 名 (内出席免除者 14 名の内出席者 7 名) 出席者 43 名	
出席対象者 43 / 52 名	出 席 率 82.69%
欠席者 16 名 (病欠者 0 名)	

<ニコボックス>

鈴木 泰博君 本日の職場例会、よろしくお願い致します。

木村 徳雄君 1月25日、26日で碧南市民スキー・スノーボード大会、福井県和泉スキー場で無事に終了しました。坂さん、神谷領伸さん、榊原靖浩さん、参加ありがとうございました。大会37旗門で長かったです。靖浩さんから「板に乗ってない」と暖かい言葉をいただき、来年大会裏方にまわろうと思いましたが、板をかえて靖浩さんにリベンジします。ありがとうございました。

小林 尚君 本日の職場例会、よろしくお願い致します。愛生館様にはお世話になります。

「激変する医療・介護・福祉業界」
～地域共生社会の実現を目指す、とある法人のチャレンジ～
愛生館グループ 代表 小林清彦君



小林清彦君

本日は寒い中お越しいただきまして、ありがとうございます。それでは、愛生館の取り組みについてお話しさせていただきます。

まずは自己紹介をさせていただきます。先月、誕生日を迎えまして、48歳になりました。現在は経営の仕事に加え、「地域共創クリエイター」として、まちづくりに取り組んでおります。1人ではできないことも、多くの方々と協力しながら、地域をより良くしていきたいという思いで活動しております。あと、ご存知ではない方もいらっしゃると思いますが、歯科医師の資格も持っております。治療経験はほとんどありませんが、資格上は治療が可能ですので、もし希望される方がいらっしゃいましたら、お声掛けください。

愛生館に入職後は、人事・企画・経理等を経験し、2010年から介護事業の主担当となりまして、本格的な事業展開を開始しました。2013年に社会福祉法人の理事長に就任、2017年に本部長を兼任、2020年に医療法人の理事長に就任、そして現在に至っております。

現在、私たちの法人は3つの部門を持ち、今年で80年目を迎えます。ロータリークラブをはじめ、県の介護や医療、全国の医薬品業界など、様々な分野で役割を果たすために活動しております。また、職業意識向上事業として、ハローワークの講師登録もしております。介護の魅力若者に伝える活動にも力を入れております。

今回お話ししたいのは、「地域共生社会」という言葉です。あまり聞き慣れない方もいらっしゃるかもしれませんが、これは地域全体で支え合い、誰もが安心して暮らせる社会を目指す取り組みです。私たちの業界はこれまで多くの制度に守られてきましたが、国の在り方や社会の変化によって、大きな転換期を迎えております。

特にここ数年、地域共生社会の実現に向けてどのように取り組むべきかを考え、行動してきました。その一環として、デンマークの視察研修を実施しております。4年前から全国介護大会の副賞としてデンマーク視察研修をプレゼントしてきましたが、コロナ禍を経て、経営環境が厳しくなる中でも、この取り組みを続けております。デンマークでは世界三大がっかりスポットの1つと言われる「人魚姫の像」を見学しました。確かに小さな像で、がっかりするかもしれませんが、こうした体験も含め、異文化に触れることで多くの学びを得ることができました。

私たちの事業所は1980年に建てられた建物を中心に回復期リハビリテーションや在宅リハビリテーションなど、地域に根ざした医療・介護サービスを提供しております。現在、150名以上のリハビリスタッフを365日体制で配置し、病気や怪我からの回復をサポートしております。また、地域とのつながりを大切に、高齢者だけでなく子どもから若者まで、幅広い世代が交流できる場を提供しております。

例えば、複合施設では高齢者と子どもたちが一緒に過ごす機会を作り、互いに学び合い、支え合う環境を整えております。特に現代では家族構成の変化により、高齢者と触れ合う機会が少なくなっております。こうした施設を通じて、認知症や障害に対する理解を深め、多世代が共生できる社会を目指しております。

地域共生社会の実現には医療や介護だけでなく、住まいや生活支援、就労支援など、多岐にわたる取り組みが必要です。私たちは地域包括ケアシステムを基盤に地域のニーズに応じたサービスを提供するため、様々な事業を展開しております。

例えば、地域共生サロンでは高齢者や子どもたちが気軽に集まれる場を提供しております。ここでは壁のないオープンな空間で多世代が交流し、地域の絆を深めることができます。また、障害者や高齢者の就労支援にも力を入れておりまして、地域全体で支え合う仕組みづくりを進めております。

今後も地域共生社会の実現に向けて、様々な取り組みを続けていきます。特に高齢者や障害者の就労促進、子育て支援、地域の健康増進など、多様な課題に対応していく必要があります。私たちは地域の一員として、これからも皆さんと共に歩んでいきたいと思っております。

最後に私たちの活動に賛同いただける方は、ぜひ寄付やボランティアを通じて応援いただければ幸いです。社会福祉法人として、寄付控除も受けられますので、ぜひご検討ください。以上で私の話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和7年2月12日（水）

卓話「写真スタジオの現状と今後の展望について」

株式会社タートル 代表取締役社長 亀山直樹氏